

2 「田んぼダム」の概要

(1) 「田んぼダム」とは

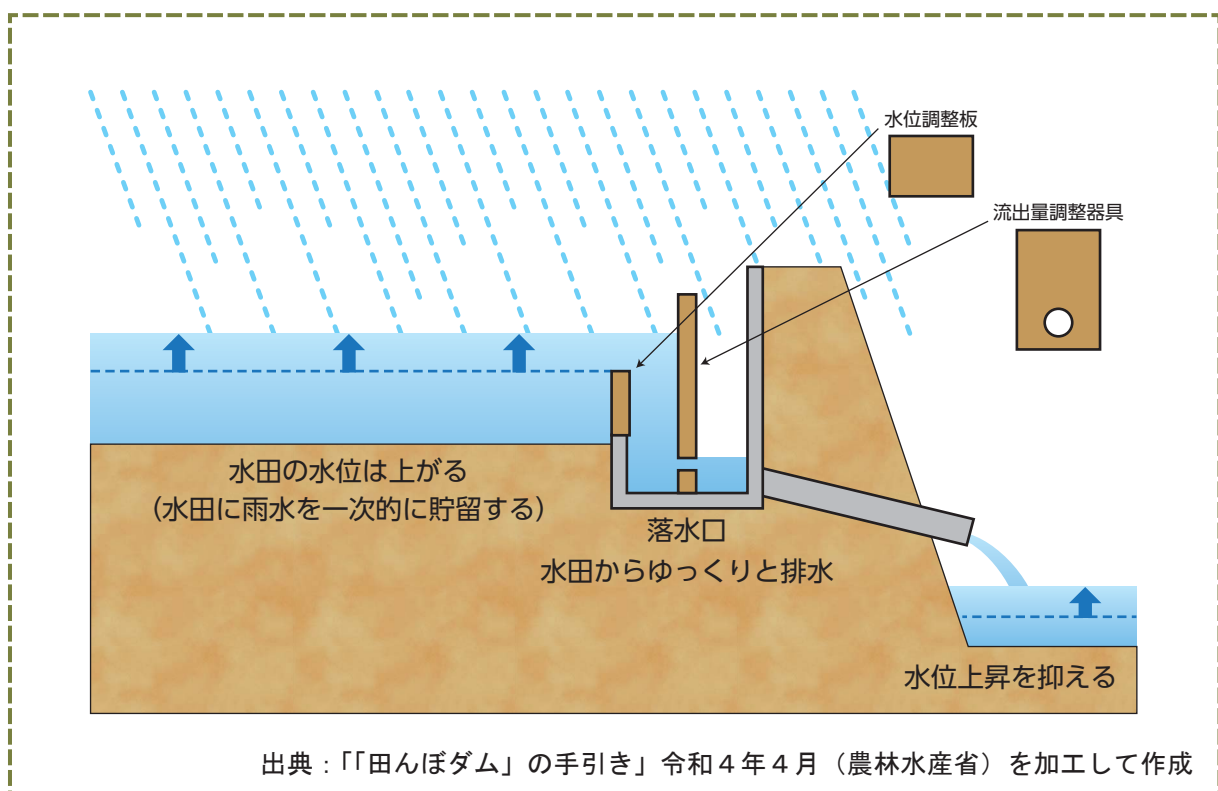
「田んぼダム」とは、水田の落水口に「流出量調整器具」を設置して大雨時に雨水を一時的に貯留し、時間をかけてゆっくりと下流に流すことで、排水路や河川の水位の上昇を抑え、実施地域やその下流域の洪水被害を防止・軽減させるものです。

特徴として、次のようなものが挙げられます。

- ・水田がもともと持っている雨水貯留機能を有効活用。
- ・設置が比較的簡単で、コストもあまりかからない。
- ・作物の生産に影響を与えない範囲で実施する。
- ・取組面積が大きくなるほど、効果が発現する。

「田んぼダム」とは、水田がもともと持っている雨水貯留機能を有効活用し、大雨が降った際に、一時的に水田に雨水を貯め、時間をかけてゆっくりと下流に流すことで排水路や河川の水位が急に上昇するのを抑え、実施地域やその下流域の洪水被害を防止・軽減させる取組です。

排水路や河川から水田に水を引き入れて貯めるものではありません。



大豆や小麦など湛水の影響を大きく受ける作物を作付けする場合は、降った雨を速やかに排水する必要があるので、「田んぼダム」を実施することはできません。

(2) 「田んぼダム」の仕掛け

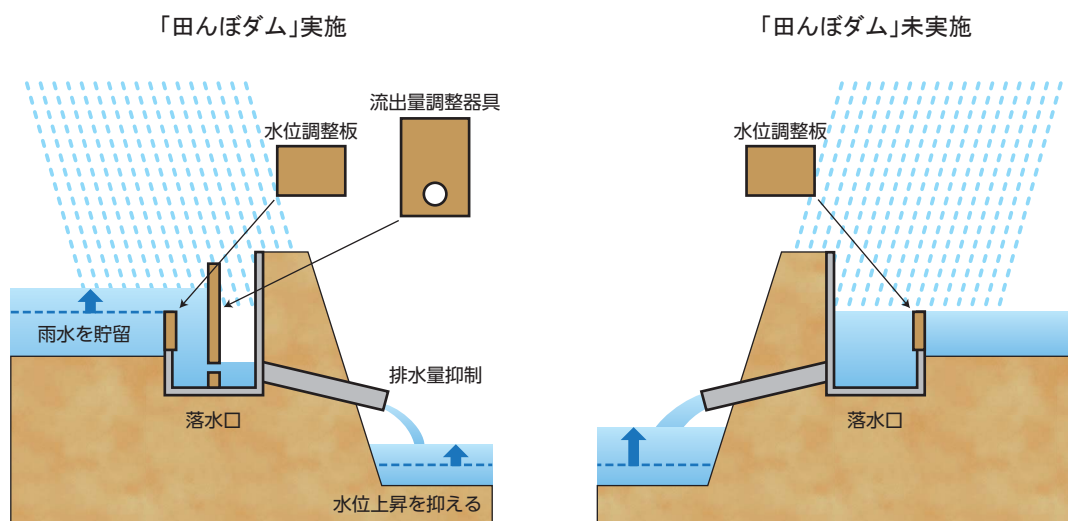
「田んぼダム」未実施の場合は、雨水は落水口をとおり、すぐに排水路へ排水されます。

「田んぼダム」を実施する場合は、水田の落水口に、流出量を抑制するための小さな穴の開いた調整板などの流出量調整器具を取り付けます。流出量調整器具の小さな穴からは一定量の雨水しか流出しないので、大雨が降った際、雨水は水田に一時的に貯留されます。

このように、「田んぼダム」を実施することで、未実施の場合に比べ、水田に降った雨水は時間をかけてゆっくりと排水され、排水路や河川の水位の上昇を抑えることで、排水路や河川から溢れる水の量や範囲を抑制することができます。

なお、通常の雨では、雨水は流出量調整器具の小さな穴から排水されるので、水田に貯留されません。

水田の落水口に流出量を抑制するための小さな穴の開いた調整板などの流出量調整器具を取り付けることで、一時的に水田に雨水を貯め、貯留した雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、排水路や河川の水位が急に上昇するのを抑えます。



出典：「「田んぼダム」の手引き」令和4年4月（農林水産省）を加工して作成



「田んぼダム」実施 水深 18cm
(令和4年8月3日 蓬田村)



「田んぼダム」未実施 水深 10cm
(令和4年8月3日 蓬田村)